

「研修小冊子の活用に向けて」別紙

全国乳児福祉協議会
研修体系具体化にむけた検討委員会

領域⑤専門的な養育技術
「発達に準じた養育支援」
補足資料

社会性の広がり・興味関心の広がり・遊びの広がり

乳児期	1. 0か月～ 1か月	2. 1か月～ 3か月	3. 4か月～ 6か月	4. 6か月～ 8か月	8か月～ 10か月	5. 10か月 ～12か月
心的発達課題	人の顔をじっと見る	首のすわり 人への追視	寝返り～ ずり這い	ずり這い～ 高這い	四つ這い 高這い	掴まり立ち つたい歩き
この世界は安全！ 人は信頼できる！	人の声の方を向く 泣いて表現 音に敏感	社会的微笑 人へ向かう発声 自分の手を見る 見える物に手を伸ばす	人を特定 周囲への興味・関心 情緒の広がり・主体性の育ち	四つ這い 座位 人見知り 大人の探索 外界への好奇心	座位 掴まり立ち つたい歩き 人見知り 大人の探索 好奇心増大 握って放す 操作する 触る 触合い遊び 歌遊び 喃語	一人立ち 後追い 指差し・模倣 共同注意 他者意識 好奇心増大 発見の喜び 対象の永続性 いないないばあ遊び 手遊び歌遊び 触合い遊び 意味語

1. 1か月未満児

【情緒・言語・社会性・遊び】

- ◆ 1対1の関わりを基本に、アタッチメント関係の形成を目指し、泣きで訴える欲求や要求に適切に応え、満たしたり安心できるように関わる。可能な限り日中の養育者は同一者とする。
- ◆ 授乳時はゆったりと授乳後も抱っこ等でしっかり関わる。
- ◆ 1日の大半を眠って過ごすことが多い月齢であるが、目覚めている時には、養育者との関わりが心地良いものとなるように、優しく声をかけながら関わる。
- ◆ 昼夜の区別がまだはっきりせず、授乳や沐浴、オムツ交換等の他は眠っていることが多いため、環境条件や寝具衣類などの清潔に気を配るとともに、睡眠時の様子を十分に観察する。
- ◆ ミルクの時間や哺乳量は一定ではなく、個々のリズム・体調に合わせた授乳を心掛ける。
- ◆ 身体機能が未熟なため、感染しやすく、個々の発育・発達状態を十分に観察していく。

乳児院における配慮

大切にしたいこと

(1か月未満児)



- ・ 欲求や要求に素早く適切に応える中で、安心感、安全感を培う時期。泣きに対して、優しく語り掛け、抱っこや触れる時には「抱っこしようね～」「オムツ変えようねえ」等と声をかけてから触れるようにする。養育者の声の高さ、話し方、触れ方、表情等、様々な感覚から、子どもは大事にされている、愛されている事を感じとっていく。
- ・ 月齢の高い他児らとは別室で過ごしている事が多いが、養育者は子どものそばで様子観察を行い、子どもの生理的欲求を早く受け止め、適切に対応する。
- ・ 養育者間の引き継ぎを確実にやり、子どもの日々の成長発達が繋がっていくようにする

2. ねんねから首座りのころ（1～3か月頃）

【情緒・言語】

- ◆ 1対1の関わり、アタッチメント関係の形成を目指し、子どもの愛着行動を引き出せるように日中養育者は可能な限り同一者とする。
- ◆ 生理的欲求を適切に満たしていく。室内環境の色彩やベッド周りのおもちゃや音量・音質等に注意し情緒の安定を図る。
- ◆ 視力のごく弱いが20～30cm程度の距離は識別することが出来、聴力は十分育っているので、豊かな声掛けをし、喃語を引き出して行くように、子どもの発声に優しく相づちを打つ。関わる大人と視線を合わせ、心地よく安心感が持てるよう関わっていく。
- ◆ 目覚めているときには子どもの様々な思いや要求を読み取り、適切に満たし、抱いたり話しかけたりする事で、養育者との関わりが心地良いものとなるようにしていく。

【社会性・遊び】

- ◇ 首を動かして追視が出来るようになったり、ハンドリガード（自分の拳を見つめる）が見られるようになるので、音・声・動き・色等の感覚刺激を与える遊びを取り入れる。
- ◇ 機嫌の良い時を利用してうつ伏せ・腹這い練習をする。
- ◇ 背中をさすったり、足をゆっくり床におろしたりして、筋肉の緊張と弛緩を経験して行く。
- ◇ 立位で抱かれたり、屈伸・腹這い等で体位を変えながら遊ぶ。
- ◇ 外気に触れる時間を少しずつ増やしていく。

おもちゃの選定

ガラガラ・ニギニギ

赤ちゃんの目の前でゆっくり振って見せる。

2か月頃から興味を示す。3か月頃から手に持つことが出来る。

オルゴールメリー・おきあがりこぼし・プレイジム

聴覚・視覚への刺激を与える。

外気浴・散歩

1か月頃より外気浴をして行く。部屋に外気を取り入れることから始め、徐々に外気に触れる時間を延ばして行く。慣れたら良い時間帯を選んで散歩に出る。刺激を与えられるだけでなく、皮膚や気道粘膜が鍛えられ丈夫な身体になる。



乳児院における配慮
大切にしたいこと
(ねんねから首座りの頃)



- ・眠りたいのに眠れない、排気や排便が上手く出来ずお腹が気持ち悪い等、心身の発達に伴い、欲求も多様化してくる。また、情緒がはっきり芽生え始めて、あやすと喜んで笑ったり、自分の欲求が満たされない時、不快な状況が改善されない時には、怒りで泣いたり、側に誰もいないとさみしくて泣いたりする姿が見られていく。夕方になると泣く「たそがれ泣き」もこの頃からよく見られるようになる。子どもがどういう理由で泣いているのか、その背後にある理由や原因を探りながら、しっかり落ち着かせ、安心できる状態へ導く。
- ・目覚めている時には視線を合わせ、表情や発声にタイミング良く応答し、情緒を交わしながら、養育者との心地良い時間を積み重ねていく。
- ・子どもからの発信や発声が弱い場合は、“手のかからない子”としてみなすのではなく、養育者が必ず意識して、より一層丁寧な語り掛けや働き掛けを行い、人へ向かって発信する力（笑顔や発声、要求）を引き出していく。
- ・授乳は哺乳意欲に合わせた自律授乳とし、一人ひとりの子どもと関わる大切な時間と捉える。
- ・養育者が授乳しながら目は他（児）を向けているということがないように、養育者間で声をかけ合いながら、1対1での授乳時間を確保していく。
- ・生後1か月以降は、少しずつ外気に触れ、陽の光や風、自然の匂いなど感じられるように関わる。
- ・個人差はあるが、昼夜のリズムができてくる。ミルクや抱っこ等、複数の乳児が同時に泣いてすぐに応じることが難しい時もあるが、睡眠状況がまちまちで個別に関われることもある。抱っこができない状況にあるときでも、必ず乳児の傍で視界に入るようにし、優しく触れたり視線を向け、声掛けを行い、心を子どもに向けるようにする。

3. 首座りから寝返りの頃（およそ4か月頃から）

【情緒・言語】

- ◆ 1対1の関わり、アタッチメント関係の形成を目指し、子どもの愛着行動を引き出せるように日中養育者は可能な限り同一者とする。
- ◆ 離乳食の開始に伴い、遊び・睡眠・食事等生活リズムを整え、情緒の安定を図る。
- ◆ 視力の発達に伴い、親しい大人への理解も見せて来るので、あやし遊びをする。
- ◆ 赤ちゃん体操やタッチケア等のふれあい遊びを通して、心と体のふれあいを図る。
- ◆ 養育者の口元をよく見せ、はっきりとやさしく声をかけ、子どもの発声を促し、発声に応えることで喃語を引き出していく。また、より様々な音・声を聴くことで、周囲の世界に興味や関心が向けられるように関わる。
- ◆ 人との関わりを求めるようになってくるので、様々な形で関わりを持てるようにする。
- ◆ 心地良い時間とともに過ごし、子どもからの働きかけがより積極的になるよう応答的な環境に配慮する。（例：顔が見える位置に座る。傍を離れるときや戻った時は声をかけるなど）

【社会性・遊び】

- ◇ よく見知った者と見知らぬ者を区別し、より親しい者との関わりを好むようになる。声のトーンや表情を合わせて、養育者とのやりとりを十分に積み重ねていく。
- ◇ 運動機能の発達が見られ、仰向きでは両脚を挙げ自分で膝や足先を手でつかんだり、腹這いでは体位を変えられるようになるので、それらを伸ばしていけるように関わる。
- ◇ 遊びを通して、意欲を引きだし、寝返りやハイハイでの移動を促す。
- ◇ 自ら玩具へ手を伸ばし、掴んだり、ガラガラ等を握ると振り回したり、なめたり、自由に手が使えるようになり、しだいに他方の手への持ち替えも出来るようになるので、握りやすいおもちゃや、音の出るおもちゃを用意し、遊ぶ意欲を引きだしていく。
- ◇ 手や布を用いて「いないいないばあ」遊びをしたり、膝の上ののせて「ぴよんぴよん」と足をつっぱる遊びをうながし、様々な身体感覚を培う。
- ◇ 色々な素材や形の異なるものを、触ったりなめたりする中で感覚を養う。玩具は清潔に保ち、歯がためなども利用していく。
- ◇ 抱っこやバギーを利用して散歩に出掛ける。

赤ちゃん体操

乳児の発育・運動能力に合わせた的確な刺激を与えることで、次の発達を促して行く。寝返り・腹這い・ハイハイ等が十分に出来ていれば特に、体操を行う必要はないが、スキンシップを取ることを目的に、体操を行うことは良い。決してトレーニングじみたものでなく、毎日の生活に、運動機能を育てたり、ふれあい遊びとして無理なく取り入れて行く。

授乳後や入浴後体調不良時、機嫌不良時、嫌がる時に無理に行わない。ただし、医療機関等で発達の遅れを指摘され、赤ちゃん体操や訓練指示を受けた場合には専門機関の指示に従い、回数等を定め実施して行く。



【2～3 か月頃】 マッサージなどで体操



足のマッサージ

足先から太ももに向けて、前と後ろ側を6、7回なで上げます。太ももの内側は避けます。



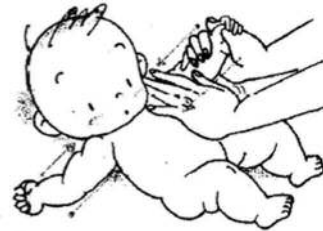
おなかのマッサージ

おへそを中心に大きな円を描くように、右回りにゆつくりとなでさせます。



背中のマッサージ

腹に伏して、背骨の両側をおしりから胸のほうへ6、7回なでさせます。



腕のマッサージ

手のひらで手首から肩に向かって、内側も外側も6、7回なでます。

【4～6 か月頃】 寝返りの体操

両足の屈伸体操



両足を持って左右同時に曲げて、おなかを押しているとき、赤ちゃんはおなかに力を入れて押し戻そうとしますので、支えている手の力を抜いて足を自然に伸ばします。

両腕の交差する体操



両腕を支えて静かに左右に開きます。次にひじを伸ばしたまま、胸の前で両手を交差させます。



右足を左足の上に乗せるようにもっていきます。赤ちゃんの腰が回り、さらにからだは自然に回ってうつぶせになります。

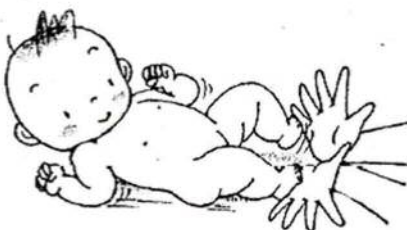
からだをねじる体操



赤ちゃん自身にやらせることが大切です。お母さんは手助けするつもりでやりましょう。

【6～10 か月頃】 ハイハイの体操

キック移動



赤ちゃんの足の裏を支えて押し上げると、反動で押し返すときに頭のほうへ移動します。2、3回。

両足の屈伸体操



両足を交互に曲げ伸ばしします。歩いているように始めはゆつくり、だんだん強く、8～10回くらい行います。

乳児院における配慮 大切にしたいこと (首座りから寝返りの頃)



- ・母体からの免疫が減少し、感染症などにかかりやすく、集団生活を営む乳児院では、そのリスクも高くなることを理解し、日常の様子を十分に観察し、細かな変化に気づき、素早く対応できるようにする。
- ・対人関係が発達し、早ければ人見知りが始まっていく(個人差あり)ため、知らない者や実習生との関わりには配慮が必要となる。無理に馴染ませることはせず、人見知りで泣いた時は、しっかりと抱いて不安を取り除く。養育者との愛着関係を土台に、安心して新奇なものを探索できるように関わる。
- ・人の顔を少しずつ区別できるようになり、親しい者とそうでない者が分かり始める。担当職員や養育グループ職員を中心としながら愛着関係を築いていく。
- ・気持ち悪いから泣く、お腹がすいて泣く、といった生理的欲求の泣きの他に、自分をアピールして注目してもらうために大泣きしたり、上手く玩具が取れずイライラして泣いたり、人見知りで大泣きしたり、また、淋しい、悲しい等、より細かな感情が発達して、色々な理由で泣くようになる。また、表現方法のバリエーションが増えてくる。泣き方の違いや訴え方を見ながら、子どもの気持ちに寄り添っていく。
- ・同時に複数の子どもが泣いた時等は、養育者間で協力しながら、一人ずつの思いを言葉にして寄り添いながら、抱っこやおんぶ等で気持ちの安定を図る。
- ・首が座り、うつ伏せで上半身をしっかりと起こしたり、うつ伏せのまま両手を使って遊べるようになる。見たり、聞いたり、触ったりという感覚が豊かになって、周囲への関心が広がるので、安心できる環境の中で様々な良質な刺激に触れていく。

おもちゃの選定



- はがため** 個人差は大きいですが6~8か月頃になると下顎の内切歯から生え始める。そのため4か月頃より歯茎がむず痒くなる。指を歯茎にこすりつけたり、顎や顔、耳をこすったり引っかいたりする。しっかりと噛める、弾力のある素材や壊れにくいものを選ぶ。
- おきあがりこぼし** 手で揺らしたてり足で触れたり、腹這い姿勢で目の前に置くと手を伸ばして来る。
- プレイボード・プレイジム**
押したり回したり、音や動きで応えてくれるので、遊びを満足させながら手指の発達も促してくれる。初めは、大人が話しかけながらやって見せると良い。
- 布製ボール** 動く物を目で追うことが出来る様になるので、転がして見せたり、柔らかい素材の物を手に持たせて感覚を楽しむ。
- ガラガラ** 手に持てるものや音の鳴るもの。

4. お座りからハイハイの頃（おおよそ8か月頃から）

【情緒・言語】

- ◆ 1対1でゆったり関わる時間を持ち、アタッチメント関係を安定して形成していく。人物の識別・認知が出来、人見知りで不安を示した時には安心できるように関わっていく。
- ◆ 喃語へ応答したり、言葉かけを多く持ち「アウ」「マンマ」「ブーブウ」「チャーチャン」等簡単な発語を引き出したり、歌や手遊びを用いたりして模倣を促す。
- ◆ 子どもの気持ちに寄り添い、ありのままを受け止めて、満たしていく。
- ◆ 抱っこやおんぶ等のスキンシップや、語りかけを行い、気持ちの安定を図る。また、心地良い体験を積み重ねながら、様々な体験を共有できるように関わる。

【社会性・遊び】

- ◇ 背筋がしっかりして来て腰の筋肉が発達して来ると、お座りが出来るようになる。ひとりで自由にお座りが出来るようになるまでは、座らせた状態にならないようにし、お座りから腹這いの姿勢になれるように、遊びの中で関わっていく。
- ◇ 旋回・ハイハイ移動が出来始めると、視界が広がり活動範囲も広がる。十分に動き回れるスペースを確保し安全に気を配りながら、探索活動への意欲を育てる。
- ◇ 寝返り同様、片方の腕や足だけを使って這うこともあるので、左右どちらも使えるように働きかける。
- ◇ 周囲の物や目新しいものへの興味・関心が広がるので、じっくり探索する時間を保障する。
- ◇ 戸外に出かけ身近な自然に触れ、外界への興味を広げる。
- ◇ 個々の発達に合わせてゆったりとした環境でのびのびと身体を動かし、自分からやってみようとする意欲を大事に育てる。

おもちゃの選定

ソフトブロック・あかちゃん積み木

積み上げた物を崩す時の大人の反応や、何回も繰り返されることを楽しむ。当たっても痛くない物」や、手のひらにすっぽりおさまる大きさなら両手に持ち打ち合わせたりひとり遊びも楽しむ。

プレイボード・仕掛けボックス

床に置くタイプのおもちゃで座って触れる様になる。叩くと音が出たり、スイッチやボタンを押すと人形が飛び出すと言った物。

山のぼり・トンネルくぐり

緩やかな階段や室内遊具・滑り台等の斜面をハイハイで進む遊びを取り入れる。

グリップカー

手前から向こうに押すと、時には体が前のめりになり、そのままハイハイへと誘われる。

プルトイ

紐をたぐり寄せて手にしたり、引っ張って見せたり、追いかけるようにしたりして、ハイハイを誘う。

ボール

ボールの動きを目で追い、旋回やハイハイを促す。



乳児院における配慮
大切にしたいこと
(お座りからハイハイの頃)



- ・運動発達の伸びとともに手や腕の筋力も発達し、哺乳瓶を一人で持てるようになる子どもも多くなる。しかし、持てるようになったからと言って一人で飲ませることはせず、授乳は極力抱いて行うようにし、子どもが哺乳瓶を触るなどの手の動きはできるだけ保障しながら心地良い雰囲気の中でゆったりと行えるように心がける。
- ・養育者との愛着関係が深まり、人見知りや養育者への後追いも見られる時期。好奇心の広がりと同様に、分離不安も強くなる時期であることを理解し、職員の交代時やその場を離れなければならない時は、「〇〇してくるからね。すぐ戻ってくるよ。」「1回ネンネしたらおはようって来るからね。」「〇〇さんとタッチ交代するね。」等、子どもに必ず声をかけ、丁寧なバトンタッチができるようにしていく。また、再会時にも丁寧に声をかける。担当者がいない時も、子どもと担当者をつないでいけるよう、養育グループ職員や職員全体で愛着関係を支えていく。
- ・自我が芽生え始め、オムツ交換を嫌がったり、「抱っこして！」と手を伸ばしたり、意志表示をするようになる。子どもの思いを言葉にしながらか欲求や要求を満たしていく。
- ・泣いて訴えることが減ってきて、手差しや指さし、発声等で伝えようとする。言葉の意味も少しずつ分かってくるので、子どもの思いや動きに合わせて、言葉にしてつなげていく。
- ・ずり這い、四つ這い、つかまり立ち、伝い歩き、と、運動機能が伸び、行動範囲も広がる。まだまだ体勢が不安定なことが多いので、危険防止に努めながら、安全基地を利用しながらのびのび探索活動ができるようにしていく。
- ・追いかっけこの「マテマテ遊び」や「いないいないばあ遊び」等、幅広く遊ぶことができる。

★この時期は、様々な身の回りのもの全てが目新しい発見と共に、触れたい、動かしたい意欲を掻き立てられる。子どもがそのものを捉えて視線を向け、手を伸ばして目的の物に向かい触れる瞬間の思いを大切にする。

★危険性のあるものに関しては、すぐに取り上げるのではなく、言葉を添えて、ゆっくり手放せるように取り下げる。

5. つかまり立ちから伝い歩きのころ（おおよそ 10 か月頃から）

【情緒・言語】

- ◆ 担当養育者を中心に、アタッチメント関係を安定して形成していく。
- ◆ 人見知り不安や、分離不安を示したときは不安を受け止め、安心できるように関わっていく。
- ◆ 理解力が増し、してはいけないことや良いことの区別もわかり始めるので、養育者の表情や声を参照しながら、危険なことや、してはいけないことが、理解できるように関わっていく。
- ◆ 自己主張も強くなり、自分の意志を態度で示すようになっていくので、“わがまま”と捉えるのではなく、自我の芽生えとおおらかに受け止める。また嫉妬やすねて見せる等の感情表現も豊かになって来るので、ありのままの姿を受け止め、しっかり子どもの気持ちに寄り添い、自己主張を受け止めながら満たしていくことで情緒の安定を図る。
- ◆ 抱っこやおんぶ等のスキンシップや、語りかけを行い、気持ちの安定を図る。また、心地良い体験を積み重ねながら、様々な体験を共有できるように関わる。
- ◆ 簡単な言葉の理解が進み、距離や位置（上下関係）等も理解しはじめるので、わかりやすい言葉で伝えたり、行動や思いを言葉に置き換えたりして、子どもの発する言葉に応えることで言語発達を促す。

【社会性・遊び】

- ◇ 行動範囲が広がり、興味・関心の広がりが見られるようになるため、安全に気を配りながら、探索活動の意欲を育てる。
- ◇ 愛着対象を安全基地とし、自由な探索活動に励み、疲れたときや怖いとき、困った時には安全基地に戻りエネルギー補給ができるように支えていく。
- ◇ 指先が器用になって来るので、手先を使った遊びや、なぐり描き等を取り入れる。
- ◇ 歩く意欲を引き出せるよう、養育者との関わり合いの中で、楽しみながら安心して歩行につながる遊びを取り入れたたり、足腰の筋力が発達するように関わっていく。
- ◇ 模倣遊びや他児との触れ合い遊びを通して、共有し合い、他者との関わり合いが楽しいと思えるように働きかける。
- ◇ 歌や音楽等を楽しみ、リズムに合わせて全身を揺らしたり、手遊び等で音遊びを楽しむ。
- ◇ 個々の発達に合わせてゆったりとした環境でのびのびと身体を動かし、自分からやってみようとする意欲を大事に育てる。

おもちゃの選定

- | | |
|-------------------|---|
| 積み木・ブロック | 積み上げる姿を見せたり崩したり、自ら積める様になれば、
連ねたり、見立ても始まる。3cm程度の積み木が良い。 |
| 容器と小物・棒とうし | 容器にコイン等を入れたり出したりを楽しむ中で、取り出し方を見つけたり、
大きな物が入らない等の経験を通して物の大小を知る。 |
| カタカタ車 | 歩行につなげる。軽すぎるとバランスを崩し倒れてしまうので十分注意する。 |
| なぐり描き | クレヨンなど1本与え、大人が描くのを見せ、自由に描く。 |
| 鏡あそび | 自己認識 |
| 型はめ | 様々な形を理解し、手から離して落とすことが出来る。 |
| 絵本 | 絵が主体の文字のない物や短い文が付いている様な物が良い。日常生活に密着した者が、
出て来る絵本や動物など「～だね」と会話を楽しむ中で言語を育む。 |
| ボール・ボールころがし・しゃぼん玉 | 向かい合って転がし合ったり、移動する物の動きを目で追う。 |



乳児院における配慮 大切にしたいこと (つかまり立ちから伝い歩きの頃)



- ・自己主張が出始め、感情表現がはっきりしてくる。しかし、まだ相手に気持ちを上手く伝えることができず、癇癪を起したり、自分でやりたい気持ちと甘えたい気持ちで、不安定になる事も多い。一人一人の思いを受け止め、言葉を添えて気持ちに共感する事で落ち着けるようにしていく。また、子どもの求めているものが何であるかを確認められるような関わりも大切にしていく。
- ・他児との関係においても、まだ言葉で表現できない分、噛みつきたり引っかいたり、お友達とのトラブルも起こる。「〇〇したかったね」「〇〇してほしかったね」等、丁寧にお互いの思いを言葉にして受け止め、その後で、「こうして伝えてみようか！」と表現方法を根気よく伝えていくとともに、相手にも気持ちがある事を知っていく。
- ・人見知りや後追いが激しくなる頃。目の前から養育者がいなくなると不安を示すため、交代時やその場を離れなければならない時は、「〇〇してくるからね。すぐ戻ってくるよ。」「1回ネンネしたらおはようって来るからね。」「〇〇さん(次の養育者)とタッチ交代するね。」等、消えてもまた会えるということを伝えていく。そのため、子どもに必ず声をかけ、安心感を持って、見通しが持てるようにする。受け止める養育者は、子どもの思いを想像しながら言葉にして受け止め、寄り添っていく。担当養育者がいない時も、子どもと担当養育者をつないでいけるよう、養育グループ職員や職員全体で愛着関係を支えていく。
- ・指さしや手差しや発声などで大人に訴えてくれる。何を伝えようとしているのか、あれかな？これかな？と思い寄り添い一緒に考えていく。時には、お友達や物を叩いたり、わざと危険なことをして養育者に見てほしい思いをアピールをすることもある。過剰に反応するのではなく子どもの真意を十分に理解して「〇〇したかったのかな。」「〇〇だったね」等、言葉にして受け止め、その後で「こんな風にして〇〇(養育者)を呼んでね。」と別の方法を伝えていく。やめてほしいこと危ないことを、分かりやすい言葉で理由とともに伝える。
- ・歩けるようになり、行動範囲やできる事もぐんと幅広くなる。状況を判断したり危険を認知する力はまだまだ未熟だが、できる事が楽しくて、好奇心のおもむくままにあちらこちらと動いて色々挑戦し、危険な場面も増える。月齢の大きい子どもの真似をして、棚に上ったり、引き出しを開けて台座にして上ったり、箱をひっくり返して上ったり…。養育者にとってはしてほしいことも多くなるが、危険がなければある程度見守る姿勢も持ち、子どもが、できた、楽しいという思いを十分に満たしていけるようにしていく。

幼児期前期 心的発達課題	6. 1歳台前半～	7. ～1歳台後半～	8. ～2歳台前半～	9. ～2歳台後半～	～3歳台
信頼できる他者と自分 (愛着対象の内在化) 自律性の獲得	～探索Ⅰ～ 安全基地の利用と探索 応答性の発声 でやりとり 共同注意 言葉の理解 情緒の分化 外界への没頭 できる！ 一人で歩く！ やってみる！ 手遊び・歌遊 び・触合い 「アンパンマン！」 呼称音 発語	よく歩き、走る ～探索Ⅱ～ 養育者への接 近、後追い 他者との相互 理解・共有 思い通りに！ 同じように！ 要求の主張 自分で～ 自分の～ 自分が～ “ものとなまえ” 「これは？」 他児と遊び 歌遊び 象徴機能	両足でジャンプ 養育者へ接近 と後追い 他者との相互 交渉 感情のコント ロール練習 頑なな自己主 張 名前を言う 見立て遊び 他児と遊び チャレンジ 遊び込む 歌遊び 言葉の獲得期 (象徴思考)	養育者の内在 化 会話の成立 他者との相互 交渉 感情のコント ロール練習 自信獲得 共感性 「なぜ？」 「どうして？」 見立て遊び 他児と遊び チャレンジ 遊び込む 言葉の獲得期 象徴思考の発 達	生活習慣自律 養育者の内在化 対象恒常性 反応のレパート リー増幅 感情表現力 理解力 3語文での会話 相互交渉力 想像力 洞察力 思考能力 概念思考 見立て遊び 創意工夫の遊び チャレンジ

6. よちよち歩きの頃 (おおよそ1歳台前半から)

【情緒・言語】

- ◆ 自己主張も強くなり、自分の意志を様々な形で表現するようになってくるので、思いをしっ
かり満たしていく。養育者との個別的な関わりを通して十分な満足感を得、養育者との安定
したアタッチメント関係を形成していく。
- ◆ 上手く自己をコントロール出来ず、大泣きしてしまうような時は、抱っこをして慰め、気持ち
を安定させて上手に気分転換を図り、楽しめる遊びへとつなげて行く。
- ◆ 「自分でやる！」という意欲を大切に、出来たことに対して大いに褒め(認め)、自分で出来る
喜びへとつなげて行く。
- ◆ 「いただきます」「おはよう」「ありがとう」等、生活の関わりの中で言葉や動作の模倣を促し
ていく。また、指さしに丁寧に応え、発語を引き出していく。
- ◆ 子どもの発した言葉や気持ちを映し返したり、簡単な言葉の付け足し等をして応えることで
更なる言語発達を促す。
- ◆ 他児とのトラブルも多くなってくるので、養育者が仲介し、それぞれが満たされ、納得できる
ように関わっていく。徐々に言葉でのやり取りに繋げていく。

【社会性・遊び】

- ◇ 歩行が獲得され、外の世界へ探索がますます広がる時期であり、万能感に浸る。体力の増加
に伴い、生活リズムの変更に応じて環境の変化も必要になっていく。食事の時間や睡眠のリ
ズムが安定し、夕食後から就寝までの時間に、十分遊べる環境を整えていく。
- ◇ 簡単な手遊びやボールのやりとり遊び等を通して養育者とのふれあいを楽しむ。
- ◇ 様々な物事に興味を持ち、自ら考え工夫して遊ぶことが出来るような環境づくりをしていく。
- ◇ 絵本等を通して覚えた言葉や経験を、実際に見たり体験する機会を持てるようにする。
- ◇ 足こぎ車や砂遊び、水遊び等全身を使って遊べるようにして行く。
- ◇ 戸外へのお散歩を楽しんだり、公園へでかけ遊具で遊んだり、スーパーへお買い物にでかけ
たりして、様々な事象に触れ経験できる機会を持つ。
- ◇ 人や物を仲立ちとした遊びの中でトラブルが増えてくるため、自分の思いを伝えたり、相手
の気持ちを受け止めたりすることが出来るように言葉かけしていく。

乳児院における配慮 大切にしたいこと (よちよち歩きの頃)



- ・自己主張がさらにはっきりしてくる。自分でやりたい気持ちが強くなる。子どもの、自分でしたい思いを尊重し、他児にも分かるように伝え一緒に応援をしながら待てるよう工夫する。
- ・これから何が起こるのか、どうするのかについて、見通しを持った声掛けをし、行動に移す前に、子どもに伝わるように分かりやすくお話しする。
- ・拒否する、すねる、嫉妬等といった感情も芽生える。何が言いたいのか、こうかな、ああかな、と、想像しながら言葉にして寄り添っていく。
- ・養育者がすることに興味関心が増し、模倣を取り入れて遊ぶようになる。子どもの反応を見ながら、やり取りを通して身の回りのことを身に着けられるようにしていく。
- ・「マテマテ遊び」や、「いないいないばあ遊び」等、追いかけられたり、期待して待つ等、養育者との関わりを、1対1でも複数でも楽しめる。養育者と他児と楽しい時間を共有できる遊びを取り入れる。
- ・自分でしたい思いがあるが、まだ上手く出来ないことが多く、ぎゃー！と泣いたり、そのうちに何で泣いているのか自分で分からなくなったりすることもある。抱っこをしながら思いを言葉にして受け止めて寄り添い、気持ちが落ち着けるように関わる。
- ・他児の姿を見て、同じようにしてほしいと要求するので、一人ひとりの思いを言葉にしながら、お互いの思いを伝え、大人の両足で半分ずつ抱っこをしたりおんぶをしたり、一人ずつ「ぎゅーっ」と抱っこをするなどの工夫や、養育者間で協力しながら、その時々で応じていく。
- ・姿が見えなくなっても存在していることが理解できるまで、まだ後追いが見られる時期。養育者の交代や、その場を離れなくてはいけない時には、子どもに「〇〇してくるからね。」と言葉をかける等、必ずまた会えることを伝えていく。そして、喜んで再会できるようにする。交代時に受け止める養育者は、子どもの思いを想像し言葉で代弁しながら受けとめ、寄り添うことで、フォローをしていく。担当養育者がいない時も、子どもと担当養育者をつないでいけるよう、養育グループ職員や職員全体で愛着関係を支えていく。
- ・養育者間で協力し合いながら、担当養育者との個別の関わりを持つことができる時間を確保していく。

おもちゃの選定

ブロックあそび 手先の分化に伴い、はめる、はずす等の使い方が出来るようになる。
創造力を働かせ、大人の作る物を見せることも大切。

なぐり描き 自由に描かせる中でより子どもの表現を引き出せる様な関わりをして行く。

足こぎ車（コンビカー）

歩くこと自体が楽しくて仕方がないというこの時期、少しの支えがあるだけでかなり安定して歩くことが出来る。自在に歩き回れる環境を与え、遊びの中で歩行練習を取り入れる。



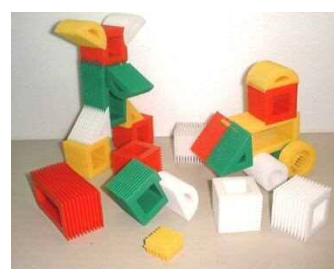
7. トコトコ歩きの頃（およそ1歳6か月頃から）

【情緒・言語】

- ◆ 自己主張が最大になる時期であり、ありのままの主張を認めしっかり満たしていく。
- ◆ 運動能力の発達や手指の発達に伴い、自分で出来ることも増えて来るこの時期、喜怒哀楽等の感情もはっきりとして来るが、上手く自己表現出来ないことから癇癪を起こしてしまう事も多い。しだいに、言語発達に伴い落ち着いて来るが、子どものもどかしい気持ちを受け止め、理解した上で養育者からの言葉かけが重要になる。言葉にして寄り添いながら、立ち直りのきっかけができるような関わりを持つ。
- ◆ 危険なことや他者の迷惑になること等は、気持ちを受け止めた上で制止すべき事は制止し、代替りのもので満たしていく。また感情的に怒るのではなく、正しい言い方や好ましい方法を、教える・伝える態度で接していく。
- ◆ 養育者との関わりの中で、言葉のやりとりを楽しみ、自分の気持ちや経験したことを言葉で表せるようにして行く。
- ◆ 養育者との個別的な関わりを大切にし、アタッチメント関係が安定するように配慮する。
- ◆ 思い通りにしたい！、何でも自分のものにしたい！という思いが強く、他児とのトラブルも多くなるため、養育者が仲立ちとなり、それぞれの気持ちが満たされ、納得できるように関わっていく。少しずつ言葉でのやり取りに繋げていく。
- ◆ アタッチメント対象を安全基地として利用し、身の回りの物や、未知のものに対して、安心して探索できるように支えていく。

【社会性・遊び】

- ◇ 担当養育者やグループの養育者（愛着対象）への後追いや、求め方が再度強くなっていく時期であるため、しっかり受け止め、満たしていく。
- ◇ 象徴機能が備わり、見立て遊びが可能になるため、養育者も一緒にままごとやごっこ遊びを楽しむ。
- ◇ 積み木やブロック、なぐり描き等手先を使う遊びを取り入れ、集中出来る時間を持てるようにする。
- ◇ 積極的に戸外に出る機会を持ち、自然に触れたり、発見する喜びを味わい、遊びの世界が広がるようにして行く。
- ◇ 人や物を仲立ちとした遊びの中でトラブルが増えてくるため、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりすることが出来るように言葉かけしていく。
- ◇ 様々な遊びを、自ら興味を持ち、考え工夫して遊ぶことが出来るような、環境づくりをしていく。



乳児院における配慮 大切にしたいこと (トコトコ歩きの頃)



- ・ 自我や自己主張がますます強くなる。自分でしたい、これがしたい、と主張がはっきりし、お友達と同じようにしたい思いも芽生えてくる。言葉や気持ちの表現が上手く出来ないことで、噛みついたり引っ張ったりなど、子ども同士のトラブルも多くみられる。それぞれに必ず思いがあるので、それぞれの思いを言葉で受けとめながら、お互いの言葉を代弁し、その後でこんなふうに表現してみようね、と表現方法を根気よく伝えていくとともに、相手にも気持ちがある事を知っていく。個々の子どもの欲求や要求の状況を把握する事に努め、グループの中でも出来るだけ少人数で過ごすことができるようにしていく。
- ・ 要求を上手く表現できなかつたり、自分の思い通りにならなかった時など、全身で思いを表現し、身体ごとあるいは頭を床や壁にぶつけることもある。まずは、子どもの思いを理解して、「〇〇だったんだね」「そうかそうか」と、言葉にして受け止め、気持ちが満たされるようにしていく。
- ・ 色々な行事に参加する機会が増えてくるので、安心できる養育者と一緒に様々な経験をして楽しみ、無理なく世界を広げていけるようにしていく。

おもちゃの選定

- | | |
|----------|--|
| ブロック | 創造力を伸ばし、成長に合わせて遊び方に変化が見られる。 |
| パズル | 単純な形の違いが理解でき始めるのでフォームボックスや簡単な型はめなど、少し動かせば出来る物。 |
| おかさねコップ | 簡単なトライ&エラーを経験できるもの。物の大小も理解出来る様になる。 |
| ままごと・お人形 | 自分の経験を通してまねっこからごっこ遊びへ、想像力や言葉を育む。 |



8. トットコ走りの頃（おおよそ2歳頃から）

【情緒・言語】

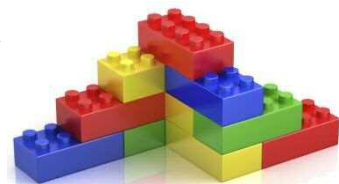
- ◆ 活動や言語の広がりによって“自分で”と言うことが多くなり、頑なな自己主張が始まる。「いや」といえる自分がいることを知り、何でも拒否したり、否定的になったり、その時々で何でも自分でしたい思いが強かったり、今はまだ甘えたい思いが強くなる等いろいろな思いが複雑になってくるため、子どものその時々々の真意をしっかりと見ながら適切に対応していく。
- ◆ 危険なこと、他者の迷惑になること等制限すべき事は制限し、感情的に怒るのではなく、理由を伝えながら、教える・伝える態度で接していく。
- ◆ 他者との関わりの中で、言葉でのやり取りや表現方法が豊かになってくるので、丁寧に応えてやり取りを楽しんでいけるようにする。
- ◆ 「自分で!」「自分の!」「自分が!」「自分だけ~!」と訴える力が増すため、養育者との良質な個別の関わりが必要となる。十分に満たされる中で、安定したアタッチメント関係の形成が深まるように関わっていく。
- ◆ いろいろな状況の中で、自分の主張が通らないことがあることを体験しながら、自分の心と周囲の状況に折り合いをつけて、コントロールする力（自律性：道徳心、適応、社会性）を、安心できる養育者の力を借りながら、育てていく。いろいろな選択肢の中から自分で考えて選んでいけるようにする。

【社会性・遊び】

- ◇ 言語理解や言葉での表現等が豊かになってくることで、より自由に行動でき、養育者を仲立ちとするだけでなく、子ども同士の関わりも積極的になってくる。同時に子ども同士のトラブルも増えてくるので、適宜仲介しながら、根気よく相互に交渉できる方法を伝えていく。
- ◇ ハサミやシール貼やお絵かき、パズルなど、手先を使う活動ができるようにする。
- ◇ 自然や身近な物事への興味や関心を広げていけるよう、安全や衛生面に留意しながら、それらと触れ合う機会を十分に持つ。
- ◇ 養育者が楽しみ喜びながら関わり、子どもの自分でやってみようという気持ちを大切にする。
- ◇ 遊びなどを通して、ルールがあることを伝えていく。

おもちゃの選定

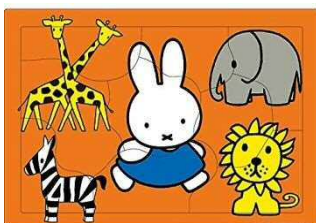
ブロック	創造力を伸ばし、成長に合わせて遊び方に変化が見られる。
パズル	形が複雑になったものもできるようになる。
粘土	感触を楽しみながら、手先を使い、想像力を育む。
ままごと・お人形	自分の経験を通して想像力を膨らませたり、お友達とのごっこ遊びへ発展できる。



乳児院における配慮 大切にしたいこと (トットコ走りの頃)



- ・自分でやりたい、でも大人がいないとやっぱり不安、そんな相反する複雑な気持ちで不安定になることがある。大好きな担当養育者と離れると大泣きしたり、反対にかまわれると「イヤイヤ」と言って逃げ出したり、たたいて反抗したり、にやっここっちを見ながらわざとダメな事をしたりする。養育者がやりにくさを感じることもあるが、子どもにとっては自我の芽生えで、本格的な自己形成の第一歩であることを認識し、揺れる子どもの心を見守っていく。時には困って一緒に考えてみることも有効である。
- ・何でも「いや」「だめ」と言ってみる頃。自分で選んで答えを出せるような働きかけをする。あれがいい、これがいいと複数で一斉にそれぞれが主張することも多々ある。それぞれの思いを代弁しながら、順番にできるようにしたり、手放せないものを置いてほしい時には「待っててね」と子どもの見える所に置いておく等の工夫が必要となる。待つことが出来た時には、そのことをしっかりと認め、言葉にして伝えていく。
- ・養育グループ内でも可能な時には、1対1や、より少人数で過ごし、満足が得られるようにしていく。
- ・自分でしたい思いが強くなり、自分でできた満足感が自信につながり、次への意欲にも繋がっていく。さりげなくサポートをして自分でできた達成感を感じられるようにしていく。
- ・今までできていたことが、その時の子どもの状態等によってできないこともあるので、そんなときもあるなあと優しく受け止める。



9. サッサカ走りの頃（2歳台後半頃から）

【情緒・言語】

- ◆ 言葉が豊かになり、養育者や子ども同士でも会話でやり取りできるようになる。子どもが話したいことの意味をくみ取り、“通じた”、“わかってもらった”と感ずることが大切になる。子どもが話したいという気持ちを十分に満たすことができるように丁寧にやり取りしていく。
- ◆ 個々の興味や自発性を大切にし、自分から気づいた事、感じた事が表現できるようにする。
- ◆ 「なぜ」「どうして」等の質問が盛んになる。丁寧に応答しながらやり取りを楽しみ、色々なことに意欲的に興味・関心や疑問を持てるようにする。
- ◆ 安定した生活の中で、継続的な関わりを通して、安定したアタッチメント関係が確固たるものになれるよう関わっていく。
- ◆ 自我が、よりはっきりしてくる。できる事も増えてくるが、まだまだ自分の思い通りに上手くできないこともあり、自分の気持ちを言葉に表現できるだけの力もないために、トラブルも多くなる。自分で解決できるところは温かく見守りつつ、上手く表現できない気持ちなども、しっかり受け止め、適切な方法を伝えながら見守っていく。

【社会性・遊び】

- ◇ 基礎的な運動能力や話し言葉が確立し、食事や排泄などの生活習慣もかなり自律できるようになるが、個人差が大きいことも十分に理解しておく。
- ◇ お友だちと遊ぶ楽しさを知り、人間関係を広げていこうとする時期。遊びの中で必要な言葉が増え、「かして」「ありがとう」「いれて」など、相手の気持ちを考えた会話ができるようになる。トラブルもあるが、適宜介入しながら、我慢することや許すことを学び、仲直りの仕方を体得できるようにする。また、ルールやマナーも伝えていく。
- ◇ 注意力や観察力がますます伸び、身の回りの養育者の行動や日常体験していることなどを取り入れていくようになり、遊びの内容にも模倣機能や創造力を発揮した発展性が見られるようになる。
- ◇ 身近なものへの興味関心がますます広がるので、探索意欲が満足できるように環境を整え、衛生、安全面に留意しながら、様々なものに直接触れたり使用したりするなど、チャレンジ精神を培う。新しく使用するものは、使い方を獲得していく。“できた！”“やれた！”と実感し、驚いたり、感動したりする体験が広げられるようにする。
- ◇ 自分のものと人のものが区別できるようになるので、自分のものを大切にできるような言葉かけ、環境を整える。同時に他児の大切なものもある事を知っていけるよう働きかける。
- ◇ 失敗したり、壊れたりしたときなど、困難に直面した時に、大人を頼って修復したり解決できることを体験していく。



乳児院における配慮 大切にしたいこと

(サッサカ走りの頃)



- ・自我の拡大と自立性の育ちを大切にしたい時期。自我の確立に向け、そんな子どもの意志や主張を尊重しながら日々の養育を心掛けることが大切だが、乳児院の集団養育や人員の問題などにより、個別での対応がどうしても難しいこともある。そうした場合は、後からでも良いので、「さっきは〇〇できなくてごめんね。」「あとで〇〇するから待っててね。」等、子どもに素直に伝えるようにする。後できちんとフォローができるように職員間で連携できるようにしていく。
- ・わざと危険なことをすることもあるので、どう危ないのか、こうなったら〇〇さん悲しいな。等、具体的に真剣な表情で伝えていく。すべて先回りして防止してしまうのではなく、子どもが自分で考え判断できるような経験を大切にしていく。
- ・自我意識の発達が進み、また、言語発達も目覚ましく、話し言葉や身振り言葉が豊かになり、多くの言葉を用いて自分自身を表現できるようになる。丁寧に応答しあってそのやり取りを楽しみ、のびのびと表現できるようにする。
- ・まだ自己中心的な思考が強いので、独り占めしようとする傾向も見られ、他児との衝突も起こりやすい。喧嘩や衝突が起こった時には、両方の主張を認めて子どもたちが納得のいく方法で解決に導いていく。
- ・様々なことへの理解が進み、情緒も複雑になっていく。自分の家族について考えることも多くなる。例えば、他児の保護者を見て淋しくなったり、疑問に思ったり、嫉妬をしたり、表現方法も複雑になっていくので、子どもの真意を理解して汲み取り、寄り添っていく。可能な時には養育グループの中でも、より少人数で過ごしたり、個別で関わる時間を作っていく。

おもちゃの選定

ごっこあそび	お買い物ごっこなど、日常生活を想像しながら具体的に遊びが展開できるようになる。イメージする力や、言葉のやりとり、人との関わりなども学ぶことができる。
お手伝い遊び	お手伝いできることに喜びと自信を持つことができる。 身近なものに触れたり扱う体験をする。
工作	はさみ、のり、テープ、紙、ペットボトルなど身近なものの使い方を覚える。
絵を描く	クレヨン、色鉛筆、クーピーなど様々な道具を使う事、想像力を育む。
探検遊び	季節を感じながら、自然に触れ、創造力を養う。 戸外で全身を動かして、身体能力を高める。
簡単な料理に挑戦	食事が出来上がる過程と一緒に楽しみながら体験していく。